

令和5年度 幼児教育研修（年齢別担任研修0歳児・第2回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

日時：令和5年9月7日（木）15:00～17:00

会場：足立区勤労福祉会館

講師：彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏



動画（事例）から**子どもの「やってみたいな」を保障する**環境設定を学びました。



- ・同じ玩具を欲しがる
- ・違う色の玩具を渡すと、二つ握る
- ・玩具を合わせてたたく



- ・両手で本を持つ
- ・ページをめくろうとする
- ・指さしをする



- ・風にゆれたモビールを目で追う
- ・細長く柔らかい布や飾りを天井から下げて、手を伸ばして触ろうとする

🌿 **玩具の種類と提示方法を考える**

🌿 **絵や写真のコントラストがはっきりしたものを用意する**

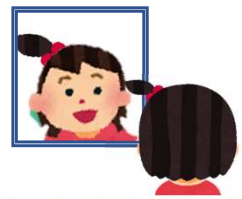
🌿 **装飾は、壁に貼るより天井に貼ると空間認識の学びにつながる**



- ・1歳を過ぎると、窓の外に目が行く
- ・背伸びをする
- ・窓のレールに車を走らせたいくなる



- ・手をつき、自分の身体を支える
- ・ハイハイで進む
- ・トンネルをくぐる



- ・鏡をのぞき込む
- ・鏡に映る人が、自分であることに気が付く

🌿 **視野が広がる関わりを大事にする**

🌿 **自分の身体が認識できるようになる遊びを取り入れる**


🌿 **自分の存在に気が付く鏡を子どもの目線の高さに設定する**


★ 月齢（差）を考慮した環境設定の **ヒント**

- * 粗大運動・微細運動は保障されているか。
- * 興味・関心の一步先をイメージしているか。
- * 一年の暮らしを見通して環境は作られているか。



0歳児の育ちを支えよう

*0歳児は、**安心できる場所**  から、一步踏み出し好きな遊びを広げていく。

*養育者は、**子どもの興味・関心を理解し、その時の育ちの特徴を理解することで**  **子どもの育ち（たい方向）を支えることが大切である。**

★ 環境を見直す時の **ヒント** ～五感を使う遊びを考えてみよう～

アイコンタクト
形や色の違うもの
動かせるもの
動くもの



外に出ると感じられる
土や草花のにおい

視覚

嗅覚

食事の提供の仕方
隣の子とのパーティションの有無
周りが見える、見えない

味覚



聴覚

音の鳴るもの
うたう
語りかける

触覚

感触の違うもの
スキンシップ
握る/つかむ
舐める



🌱 真似できるもの



絵本を持ち歩きたい子どもの姿があれば、小さいバッグを用意してみる。買い物の真似をしているのかもしれない。

🌱 動くもの、動かせるもの



ウレタン積み木を組み合わせた遊具に上ったりまたがったり。斜面に車を走らせて遊ぶこともできる。

🌱 スキンシップを図るもの



壁に沿って段ボールで作った箱から、「いないいないばあ」が楽しめる空間を作り出す。

うつぶせ寝をおお向けに直すことは、子どもにとって不適切なこと？

★ 研修生の質問に答えていただきました。

保育園で子どもたちを預かるということは、家庭保育ではない保育を行うことである。今、子ども自身が自分の中で自分の命を守れない時には、養護性として子どもの命を守ることが保育者の役割である。
SIDSの予防のために、子どもの姿勢をおお向けに直すことが適切である。

🌱 研修生の報告書より 🌱

玩具の種類や提示方法、保育者の応答の仕方など講師の先生や他園の先生方からアドバイスを受けることができ、とても参考になった。今の子どもたちの興味・関心を理解し、子どもたちがやりたい遊び（育ちたい方向）を支える保育をしていきたい。

室内の環境設定をする際には、粗大運動、微細運動の活動が保障されているのか、子どもたちが今どんなことに興味をもっているのかを考えながら設定していくことが大切だと学んだ。映像で子どもたちの姿を見て、環境構成の意味や玩具が子どもにどんな影響与えているかなど、多くの学びがあった。